

旧昆虫学及養蚕学教室



札幌キャンパス内に現存する最古の建物で、昆虫分類学の礎を築いた松村松年が初代教授として昆虫学教室を主宰した場所です。松村は、日本産昆虫約1,200種の命名者で、大雪山に生息するウスバキチョウやダイセツタカネヒゲなど4種の蝶（国の天然記念物）は新種 / 新亜種として松村が発表したものです。旧昆虫学及養蚕学教室は、日本の木造軸組構造に、西洋から輸入されたキングポストトラス構造の屋根を載せた建築で、設計者は、日本の近代建築の発展に大きく貢献した中篠精一郎です。

旧昆虫標本室



大切な昆虫を火災から守りたいという松村の思いが通じて1927年に完成しました。外壁上部には札幌軟石が積まれ、鋼製窓内側にはファイヤーカーテンボックスによる防火対策が施されるなど、当時の先進的な建築技術が用いられています。当時、ここには日本最大の昆虫標本が所蔵され、国立大学では類のない昆虫ミュージアムとして国際的に知られていました。

ご寄附の御礼

「都ぞ弥生」セット

北大農場伝承の技に基づいてつくられたハム・ソーセージと、余市果樹園産のリンゴを原料にしたシードルを、札幌キャンパスや研究林で育った樹を材料に作製した木箱に収めました。木箱を開けると、きっと、花の香が漂ふことでしょう。



本セットは、卒業生や本学にご縁のある方々に、キャンパスを懐かしく思い出していただきたいという願いを込めて、恵迪寮明治45年寮歌「都ぞ弥生」の歌詞が描き出す北大の情景を、それぞれの名称に冠しています。

※「都ぞ弥生」セットは、準備が整い次第、ご寄附をいただいた順にお届けいたします。

ご寄附の方法

専用の振込通知書をご利用いただく場合は、ゆうちょ銀行・郵便局、または銀行でお手続きください。北大フロンティア基金のウェブサイト（URL：<https://www.hokudai.ac.jp/fund/>）から、クレジットカードやインターネットバンキング決済でもご寄附いただけます。

一口20万円で何口でもご寄附いただけます。100万円以上ご寄附いただいた場合には、「北海道ワイン教育研究センター棟」内の銘板へご芳名を掲載させていただきます。

ご寄附、返礼品についての詳細は
特設ウェブサイトをご覧ください



北海道大学 広報課 卒業生・基金室

〒060-0809 北海道札幌市北区北9条西6丁目

北海道大学 百年記念会館内

Tel : 011-706-2017

E-mail : kikin@jimuhokudai.ac.jp

エルムの森 プロジェクト



歴史的建物を、
未来へ



レガシーキャンパスを リデザインし、 過去と現在と未来をつなぐ

「エルムの森プロジェクト」は、エルムの森に佇む札幌キャンパス最古の建物である旧昆虫学及養蚕学教室および旧昆虫標本室を保存改修し、北海道ワイン教育研究センター棟として再生利用することで、そのレガシーを未来のキャンパスにつなぐ事業です。



PROJECT ELM FOREST

旧昆虫学及養蚕学教室

旧昆虫標本室

北海道ワイン教育研究センター棟

北海道大学は2026年に創基150周年を迎えます。1876年に設置された札幌農学校は、1903年に札幌時計台（旧札幌農学校演武場）のある北1条エリアから、北8条（現在の北大キャンパス）に移転しました。大学正門からサクシュコトニ川が流れる中央ローンを経て農学部に至る美しいエリアは、この時代にかたちづくられたものです。ここに建つ旧昆虫学及養蚕学教室（1901年）、旧札幌農学校図書館読書室・書庫（1902年）、古河講堂（1909年）の佇まいは北海道大学の原風景を今に遺しており、これら歴史的建造物は登録有形文化財に指定されています。

北海道大学は、百年以上に及ぶ大学の発展と共にあったこれらの歴史的建造物を再生し、新しい時代を担う教育・研究の場として活用しようと考えています。

未来に繋がる 「エルムの森プロジェクト」 にご支援を

北海道大学が「比類なき大学」であることの理由の一つは、キャンパス内に歴史的な建造物が数多く残されていることです。

その代表的建造物のうち、旧昆虫学及養蚕学教室と旧昆虫標本室が、今回、「北海道ワイン教育研究センター」として生まれ変わろうとしています。どれも、小ぶりでも可愛らしい建物です。

北海道大学は、間もなく創基 150 年を迎えます。その歴史の中で受け継がれてきた大切な考えの一つに、「サステイナブル・キャンパス」があります。DX、Society5.0 などによるイノベーションは、街並みを変え、風景を変える強い力も持っています。北海道大学は、イノベーションの結果として生まれるキャンパスの変化と共に、かつての風景の維持と再利用を重要なものと考えています。それは、SDGs の考えそのものです。

ワイン産業は、非常に魅力あるもので、今後の北海道にとって地域創生の役割を期待され、新しいイノベーションのパワーに満ちています。このワインの教育・研究の中心地として、北大の変わらないキャンパスの中でも最古の建物を再生利用するのがこの「エルムの森プロジェクト」です。どうか、このプロジェクトをご支援いただき、大きなワクワク感と、サステイナブルな取り組みを共有していただければ幸いです。

北海道大学総長

寶金清博

ここから、 北海道の新しい 農食産業を拓く

120 年前、松村松年は、甚大な農作物被害をもたらす害虫の駆除方法を確立することで北海道農業の明日を拓こうと、ここで昆虫学の教育研究に没頭しました。松村ら先人たちの熱い思いと農民の努力によって、北海道農業は目覚ましい発展を遂げ、日本の食料基地と称されるまでに発展しました。しかし、近年、気候変動による温暖化の影響、農畜産業による環境負荷、後継者不足による農家減少と地域コミュニティの崩壊など、北海道農業は多くの問題を抱えています。これからの 100 年を見据えて、北海道の新しい持続的農食産業を、ここから拓いていきます。

1901 年建設当時の札幌
農学校昆虫学及養蚕学
教室（講堂）
※写真資料：北海道大学附
属図書館所蔵



～ご支援ください～ 北大の歴史的建造物再生へ

旧昆虫学及養蚕学教室は 120 年の風雪に耐え、今も当時の姿で北大キャンパスの一角を美しく彩っています。しかし、現在の耐震基準を満たさず、建物内で人が活動できません。また、オリジナルの天井や意匠が、過去の簡易改修で覆い隠されていて見る事ができません。

北海道産ワインの教育研究拠点

北海道産ワインがおいしくなりました。北海道の気候が温暖になったことで栽培可能なブドウ品種が増え栽培地域も拡大したことから、北海道各地域に根ざした個性あふれるワインが生産されるようになりました。この 10 年間で北海道のワイナリーは 3 倍に増え、現在、道内には 53 のワイナリーが存在します。北海道大学は、ワインを核に地域の農食産業を活性化することで、家族や仲間と安心して心豊かに暮らし続けられる地域社会をつくることを目指しています。

本事業では、旧昆虫学及養蚕学教室を保存改修し、北海道ワイン教育研究センター棟として利用、北海道産ワインの研究やプロモーション、人材育成の拠点とします。標本室は道産ワインの熟成庫として利用し、センター棟にはワインを楽しめるカフェも併設します。春楡の樹下で、ワインを片手にチーズやハムを味わいながら、市民と学生、研究者と生産者が普段に楽しく語らう、そんな“時”を楽しむ空間を北大キャンパスにつくります。



改修後の建物イメージパース ※写真提供：工学研究院建築デザイン学研究室

私たちは、アーカイブ史料の文献調査と現況調査を行って創建時の建築意匠を丁寧に読み取り、オリジナルの建物部位は可能な限り保存・補修・復元しようとしています。そのための改修予算は約 3 億円で、そのうち 1 億円は国庫予算で措置されることになりましたが、約 2 億円が不足しています。北大の歴史的建造物の価値を 100 年後の未来に継承するために、ぜひ皆様のお力添えをお願いします。

建物保存・改修のポイント

歴史的価値の継承

建物の現況調査と史料による文献調査から、創建時の建築意匠を丁寧に読み取り、オリジナルの建物部位は可能な限り保存・補修・復元し、歴史的建造物の価値を継承します。

耐震補強・断熱改修

歴史的建造物の価値を保存しながら、現代のニーズに対応させた建物に改修します。現代の構造補強技術により、明治時代の木造架構の耐震性能を向上させ安全性を担保します。積雪寒冷地で培われた北海道の建築技術を駆使し、高断熱・高機密を実現することにより、快適な室内環境と消費エネルギーの低減を実現します。

キャンパス空間への寄与

旧昆虫学及養蚕学教室と旧昆虫標本室を、北海道ワイン教育研究センターとワイン熟成庫として一体に保存・活用することによって、エルムの森や農学部ローンにおける外部環境の整備に繋がります。札幌キャンパスの豊かな生態環境と歴史的資産、時代を先導する研究・教育空間の融合により、比類なき北海道大学キャンパス景観を創生します。

100 年後も使える建物に

今後 100 年間も使い続けることができるように、耐震・断熱補強は建物外周部で行い、建物内部は、間仕切りのない大きなひとつの空間に改修します。建物内に必要な箱状の室を置くボックス・イン・ボックスの手法により、今後の様々な建物用途にフレキシブルに対応させます。